

1 古代インド史に関する以下の問(1～2)に答えなさい。解答は選択肢(a～e)から最も適切なものを1つ選びなさい。

問1 次の文章の空欄(1～12)に入る語はどれか。

インドで最古の文明は(1)時代のもので、前2600年頃～前1800年頃、インダス川流域を中心に栄えた。代表的遺跡には、パンジャブ地方の(2)遺跡や、シンド地方の(3)遺跡がある。そこでは、議場・倉庫・沐浴場・下水道・道路・レンガ造りの住居など、高度な都市文明が築かれた。出土品には、ろくろで作られた彩文土器や、神・人・動物の像と象形文字とが刻まれた(4)がある。この文字はまだ解読されていないが、像には後世の(5)の三大神像もあり、この文明がインド文明の源流であることがわかる。

前1500年頃、(6)語族のアーリヤ人が(7)を越えてパンジャブ地方に進入し、前1000年頃にはガンジス川流域まで進出して、農耕社会を形成した。彼らは、自然現象を神として崇拜し、さまざまな祭式を行った。その宗教的な世界観をまとめた神々への賛歌が『(8)』である。アーリヤ人は先住民を支配し、アーリヤ人内部でも次第に階層分化が進展した結果、(9)と呼ばれる身分的上下関係が生まれた。それは上から言うと、祭司のバラモン、王侯・戦士の(10)、庶民の(11)、先住民で隷属民のシュードラという4つの基本的身分であり、その枠外に被差別民(不可触民)が存在した。この4身分と、職業別コミュニティが結びついて、インドのカースト制度が形成されることになる。20世紀には、カースト制度で最も差別されている不可触民の差別撤廃運動に献身した(12)という政治家も出現した。

- (1) a 旧石器 b 中石器 c 新石器 d 青銅器 e 鉄器
 (2) a サーンチー b ドーラヴィーラー
 c ドヴァーラヴァティー d ハラッパー
 e モエンジョ＝ダーロ

- (3) a サーンチー b ドヴァーラヴァティー c ハラッパー
 d マトゥラー e モエンジョ＝ダーロ
 (4) a 印章 b キープ(結縄) c 銅鼓 d 刀銭
 e 粘土板
 (5) a シク教 b ジャイナ教 c ゾロアスター教
 d ヒन्दウー教 e 仏教
 (6) a アフロ＝アジア b アルタイ c インド＝ヨーロッパ
 d ウラル e ドラヴィダ
 (7) a アッサム地方 b アラビア海 c カイバル峠
 d タリム盆地 e チベット高原
 (8) a ウパニシャッド b シャクンタラー
 c シャー＝ナーメ(王の書) d マヌ法典 e リグ＝ヴェーダ
 (9) a ヴァルナ b ダルマ c カルマ d バクティ
 e スーフィー
 (10) a アーリマン b ヴァイシャ c クシャトリヤ
 d ハリジャン e ライヤット
 (11) a アーリマン b ヴァイシャ c クシャトリヤ
 d ザミンダール e ハリジャン
 (12) a アンベードカル b ジンナー c テイラク d ナーナク
 e ラーム＝モーハン＝ローイ

問2 以下の問いに答えよ。

- (1) 前6世紀におこり、ガンジス川中流域を統一した国で、仏教やジャイナ教が誕生した国はどれか。
 a ヴィジャヤナガル王国 b コーサラ国 c シンハラ王国
 d マイソール王国 e マガダ国

(2) ガウタマ(ゴータマ) = シッダールタが説いた、解脱に至るための実践法は何か。

- a 八正道 b 仏像製作 c 仏典結集 d 輪廻転生
- e 六信五行

(3) ジャイナ教を開いた人物は誰か。

- a アクバル b ヴァルダマーナ c ヴイシユヌ d カピール
- e パーブル

(4) 前4世紀末に登場したインド初の統一王朝といわれるものはどれか。

- a ヴァルダナ朝 b クシャーナ朝 c サータヴァーハナ朝
- d チョーラ朝 e マウリヤ朝

(5) (4)の王朝を開いた人物は誰か。

- a アウラングゼーブ b アショーカ c アイバク
- d チャンドラグプタ e ハルシヤ

(6) (4)の王朝の都はどれか。

- a アグラ b アジャンター c ナーランダー
- d パータリプトラ e プルシャブラ

(7) (4)の王朝は第3代の王の時に最盛期を迎えた。この王の説明として誤っているものはどれか。

- a 第二回仏典結集を行った。
- b スリランカへ仏教を布教した。
- c 南端部を除きインドを統一した。
- d 各地に磨崖碑・石柱碑を建立した。
- e 中国名を阿育王という。

(8) 後1～3世紀に中央アジアから西北インド地域を支配下においた王朝がある。この王朝の説明で、誤っているものはどれか。

- 東西交易で繁栄した。
- b 都がおかれたところは、現在パキスタンのペシャワールになっている。
- 彫りの深い写実的な顔立ちや、ひだのある服が特徴的な仏像が彫られるようになった。
- d 3世紀のカニシカ王の時にササン朝と戦って敗れた。
- e 王は、ギリシア・インド・イラン・ローマ風の王号を持っていた。

(9) (8)の王朝時代に、仏教に新しい運動が起こった。この運動によってできた宗派の説明として誤っているものはどれか。

- a 大乘仏教という。 b 上座部仏教という。
- c 大衆の救済を重視する。 d 菩薩信仰が含まれている。
- e 竜樹によって理論化された。

(10) 前1～後3世紀にデカン高原を支配した王朝がある。それは何人の王朝か。

- a アーンドラ人 b クシャーン人 c サカ人 d シンハラ人
- e タミル人

(11) (8)の王朝が倒れたあと、4～6世紀に北インドを統一した王朝はどれか。

- a ヴァルダナ朝 b クシャーナ朝 c グプタ朝
- d ハルジー朝 e ロディー朝

(12) (11)の王朝時代に黄金期を迎えたインド古典文化の説明として、誤っているものはどれか。

- a 後にイスラーム圏からヨーロッパに伝わる、十進法やゼロの概念が確立した。
- b サンスクリット語の文学が開花し、劇作家のカーリダーサが傑作を残した。
- c パラモン教に民間信仰が融合したヒンドゥー教が社会に定着した。
- d 仏像の様式として、純インド的なガンダーラ様式が完成した。
- e ヒンドゥー教の聖典とされる『マハーバーラタ』がほぼ現在の形にまとめられた。

(13) 7世紀に北インドを支配した、古代インド最後の統一王朝について、次の説明のうち正しいものはどれか。

- a 王朝の創始者はハルシャである。
- b 王朝の最盛期は、チャンドラグプタ2世の統治期である。
- c この王朝時代に、戒律関係の仏典を求めて、東晋から法顕がやってきた。
- d この時代に、海路で唐から来た玄奘は、『南海寄帰内法伝』を書いた。
- e この王朝時代に、唐から来た義浄は、帰国後、『大唐西域記』を書いた。

2 次の設問(1~3)に答えなさい。

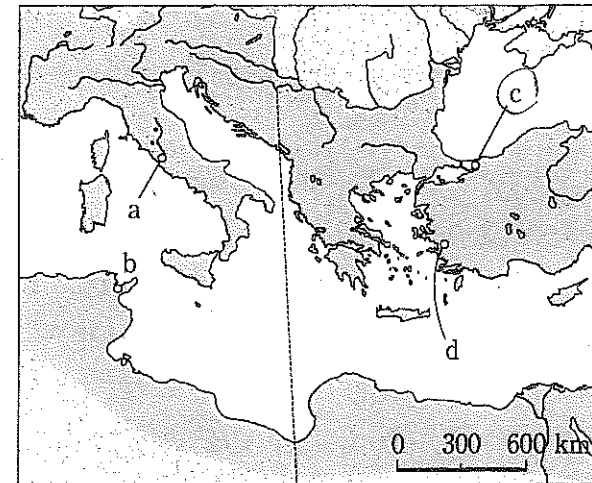
設問1

以下の文書(A~C)は、5~13世紀のローマ=カトリック教会に関連する史料の一部である。これらを読んで、問(1~11)に答えなさい。解答は選択肢(a~d)から最も適切なものを1つ選びなさい。文書の出典は、(A)がデンツィンガー他『カトリック教会文書資料集 改訂版』(エンデルレ書店、1982年)、(B)および(C)が歴史学研究会編『世界史史料5』(岩波書店、2007年)である。ただし、表記の一

部を改めたところがある。

(A) この聖にして偉大な全世界教会会議は、このような真理に反対する説をとなえることをやめさせる(中略)。われわれはみな、教父たちに従って、心を一つにして次のように教え、宣言する。われわれの主イエス・キリストは唯一の同じ子である。 。

問1 この史料は、451年に開催された公会議における決議文である。この公会議が開かれた場所は地図中のうちどれか。



問2 に入る文章として正しいものはどれか。

- a 彼(キリスト)において神性と人性の二つの本性は分離している
- b 彼(キリスト)は神性を完全に所有し、同時に人性を完全に所有する
- c 彼(キリスト)は父と同質であり、神性のみを有する
- d 彼(キリスト)は父と異質であり、人性のみを有する

問3 この会議が開催される少し前まで生存していたキリスト教著述家は、ローマ=カトリック教会の教義や思想に非常に大きな影響を与え続けた。この著述家の人物名と著作名、活動した地域の正しい組み合わせはどれか。

- a アンブロシウス—『告白録』—シリア
- b アウグスティヌス—『神の国』—小アジア
- c アンブロシウス—『神の国』—パレスティナ
- d アウグスティヌス—『告白録』—北アフリカ

問4 この会議とほぼ同じ頃に起きていた出来事として正しいものはどれか。

- a フン人の統率者アッティラ王はイタリアに侵入したが、教皇レオ1世の調停により退却した。
- b ヴェネツィアを首都とした東ゴート王国が、ローマ=カトリック教会を厳しく弾圧した。
- c ユスティニアヌス1世が地中海地域を再統一し、イタリア全土に強力な支配力を及ぼした。
- d ランゴバルド族の脅威にさらされるなか、教皇グレゴリウス1世がイングランドの教会などと連携をはかった。

問5 この会議と同時代、キリスト教の影響力がほとんど及んでいなかった地域はどれか。

- a ガリア
- b アルメニア
- c ヒスパニア
- d ゲルマニア

(B) ところで^(ア)彼がローマにやって来た時、教皇レオが^(中略)出迎え、彼を最大の恭順と最高の栄誉で迎えた。^(中略)聖歌が流れるなか、聖ペテロ大聖堂^(イ)(サン=ピエトロ大聖堂)に彼を案内した。^(中略)レオは彼の頭上に冠を載せ、そしてすべてのローマ人達が賛同の歓呼をあげた。

問6 文中の下線部(ア)について以下の問いに答えなさい。

(1) この人物の説明として正しいものはどれか。

- a イベリア半島へ勢力を拡大し、いわゆる国土回復運動(レコンキスタ)を開始した。
- b イタリア半島北部の部族国家を討伐し、ラヴェンナを教皇に献上した。
- c ドナウ流域に出兵し、アルタイ語系遊牧民マジャール人を平定した。
- d ドイツ北部のザクセン人を服属させ、その地のカトリック化を推進した。

(2) この人物がたてた政権の説明として、誤っているものはどれか。

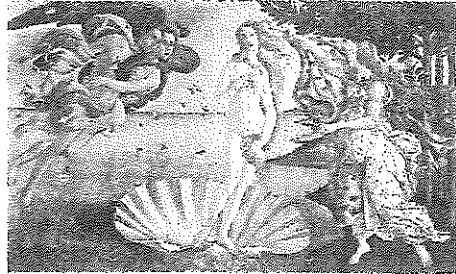
- a メロヴィング朝の王を廃位した祖父や、トゥール・ポワティエ間の戦いで勝利した~~英~~の築いた政治的基盤をますます発展させた。
- b 各地方を統治する役人として伯をおき、教会関係者や世俗の有力者を巡察使に任命して、伯の監督にあたらせた。
- c 当時西ヨーロッパに増えつつあった修道院を通じ、文化・政治の両面から領土全体に強い影響力を行使しようとした。
- d アーヘンの宮廷にアルクインらの文化人を招き、古典の復興に尽力した。

(3) この戴冠が行われた頃の世界についての説明として正しいものはどれか。

- a 西アジアでは複数のカリフが並列し、イラン系の~~ブ~~イフ朝が成立した。
- b 中央アジアではテュルク系遊牧民族が強勢となったが、この民族は、中国の歴史書においては「突厥」と称されている。
- c アメリカ大陸ではテノチティトランを中心にアステカ王国が繁栄し、独特の宗教儀式や絵文字、暦法など、特徴ある文化が興隆した。
- d 東南アジアではジャヤヴァルマン2世がカンボジアにアンコール朝を樹立した。

問7 下線部(イ)は16世紀初頭以降に大きく改修されたが、この事業にかかわった芸術家の作品として正しいものはどれか。

a



b



c



d



(C) トルコ人はロマニアの国境地帯でキリスト教徒たちの土地をますます占領し、(中略)教会を破壊しては神の王国を略奪した。(中略)その邪悪な民族をわれわれの土地から追い払うため、(中略)今やキリストの戦士とならねばならない。

問8 この史料は、1095年に開催された教会会議の後、教皇が広場において行った演説の一部とされる。これに関して、以下の文のうち誤っているものはどれか。

- a この演説の後行われた長期的軍事行動には、戦士階層のみならず、巡礼を目的とする民衆も大勢参加していた。
- b この演説の後行われた長期的軍事行動によって、イエルサレム王国やラテン帝国などの西ヨーロッパ人の国家が建設された。
- c この演説の後行われた長期的軍事行動のなかで、皇帝フリードリヒ2世とサラディンとの間で戦闘が行われた。
- d この演説の後行われた軍事行動は、次第に「聖地奪還」という大義を失ったが、イタリア諸都市による海上輸送などにより交易ルートが開かれ、東西交渉は活発化した。

問9 下線部(ウ)が信じるキリスト教の説明として誤っているものはどれか。

- a マニ教などに類似した二元論が世俗権力により撲滅された。
- b コンスタンティノーブル教会を中心に発展した。
- c 典礼にギリシア語を用いた。
- d 聖像崇拜の是非をめぐる激しい議論を展開した。

問10 この演説を契機に行われた軍事行動はその後約2世紀間にわたって行われたが、この軍事行動に参戦しなかった国王は誰か。

- a フィリップ2世
- b ルイ9世
- c ジョン
- d リチャード1世

問11 この演説が行われた頃、存在していなかった王朝はどれか。

- a ファーティマ朝
- b 遼
- c 新羅
- d 李朝(ベトナム)

設問2 騎士階層について述べた次の文章を読み、問(1~5)に答えなさい。解答は選択肢(a~d)から最も適切なものを1つ選びなさい。

987年に成立したカペー朝^(ア)の初期王権は、神聖で特別な権威を帯びた存在とみなされる一方で、行財政その他の実効的権力を及ぼせる範囲は、パリ周辺などの狭小な王領地のみに限られた。それ以外の地域では、地域の有力者たちが自ら建設した城を中心に、自身の所有する土地(所領)およびそれに付随する農民の安全保障をはかるという体制が一般化する。「諸侯」や「領主」とよばれるこれらの有力者は、農民に軍事力を提供する見返りとしてさまざまの特権^(イ)を行使し、所領の一円的支配を強化し、自身を主君と仰ぐ者と契約関係を結んで、さらなる勢力の拡大^(ウ)を企図した。しかし11世紀以降、民族移動^(エ)の収束や気候の温暖化、またキリスト教化の完了などにより社会的安定^(オ)がもたらされると、この契約関係の下位に属する者は、官職の授受などを通じてより上位にある者との結びつきを強め、結果として国王を頂点に大諸侯、中小の諸侯、零細な領主が各々関係をとりむすぶピラミッド状の重層的権力構造が生成されることとなる。

騎士は、中世ヨーロッパに特異的なこの社会的秩序において、王や諸侯、またそれらを主君とする騎馬戦士すべてを指す。その意味で、騎士は雑多な集団であったともいえるが、他方で彼らは「祈る人(聖職者)」や「働く人(農民)」とは社会的役割において一線を画す「戦う人」であるという点では共通していた。彼らは主君への忠誠や戦闘時の勇気、貧者に対する気前のよさなど、キリスト教の影響を受けたさまざまな徳目、すなわち騎士道を身につけることが要求され、このよう^(カ)な精神に基づいた独自の文化を開花させていったのである。

問1 下線部(ア)に関して述べた次の文A、Bの正誤を判断し、その正しい組み合わせを選びなさい。

A フィリップ2世はブランタジネット朝との争いに勝利し、大陸からイングランドの全勢力を一掃した。

B フィリップ4世は教皇ボニファティウス8世と激しく対立し、三部会を開催して国内世論を味方につけた。

a A—正 B—正 ~~✗~~ A—正 B—誤

c A—誤 B—正 ~~✗~~ A—誤 B—誤

問2 下線部(イ)の説明として誤っているものはどれか。

~~✗~~ 領主は、粉ひきなどに利用されていた水車を所有しており、領地に居住する農民に有料で水車の使用を強制した。

~~✗~~ 領主は、労働力を確保するために農民の自由な移動を禁止し、結婚や死亡などで人口移動が発生する際は、税を徴収した。

Ⓒ 領主は、農民に貢納と賦役の義務を負わせたが、次第に貢納が主体となっていき、納入法も物納から^(ウ)銭納に変化した。

d 領主は、領地内の森林や河川を重要な資源とみなしており、農民が立ち入ることを厳しく^(カ)禁止して、特権の維持と確保につとめた。
芝居??

問3 下線部(ウ)の説明として誤っているものはどれか。

a この契約関係は、土地を媒介として成立した。

b この契約関係は、複数の主君との間に結ぶことができた。

c この契約関係は、^(ウ)叙任式という儀礼を通じて確立した。

d この契約関係は、^(ウ)破棄することが可能であった。

問4 下線部(エ)について、9世紀から12世紀にかけての民族移動の説明として誤っているものはどれか。

- a ノルウェー出身のノルマン人ロロは、デーン人を統率して北フランスを掠奪したが、西フランク王からノルマンディー公に封じられて定住した。
- 南イタリアに到来したノルマン人騎士たちが樹立した両シチリア王国(ノルマン=シチリア王国)では、ビザンツ、イスラーム、カトリックの三者が混交する文化が生まれた。
- アングロ=サクソン系の王エグバートによって再統一されていたイングランドでは、ウィリアム1世による征服によってノルマン系王朝が成立した。
- ノルマン人の一派ルーシの首長であったリュークは、ドニエプル川流域に進出し、ロシアの起源となるノヴゴロド国を建設した。

問5 下線部(オ)について、騎士の武勲を描いた代表的な作品はどれか。

- a 『ローランの歌』
- b 『エッタ』
- c 『カンタベリ物語』
- d 『神学大全』

設問3

次の文章を読んで問(1~4)に答えなさい。解答は選択肢(a~d)から最も適切なものを1つ選びなさい。

11世紀以降、教会内部における道徳的な改革をめざす運動が活発化したが、次第に指導的立場は修道院から教皇へ移行し、運動の焦点も変化した。特に11世紀後半、教皇グレゴリウス7世が推進した改革は、王や皇帝との対立を激化させ、聖俗両界に大きな混乱を引き起こした。

その混乱を解消し、秩序の再構築を行うため、両者は長期にわたる交渉を行った。当時発展しつつあった教会法もこの交渉を援護した。これによって

が果たされ、中世中期を特徴づける秩序が構築された。

しかし、14世紀初頭以降、このような秩序は動揺し始め、同時に教会の世俗化

や腐敗もとどまることはなかった。ここに、新たな改革の時代が到来することとなった。

問1 下線部(ア)について、この改革において最も重視されたものはどれか。

- a 聖書の重視
- b 聖職売買の禁止
- c 贖宥状の廃止
- d 教会財産の共有

問2 下線部(イ)の在位期間に生じなかった事件はどれか。

- a 教皇による皇帝の破門
- b クリヴェニー修道院の創建
- c カノッサ城での皇帝謝罪事件
- d 教皇の南イタリア逃亡

問3 に入る語はどれか。

- a 煉獄思想の承認
- b 東西教会の合一
- c 教皇庁の成立
- d 政教の分離

問4 下線部(ウ)について、この時期、改革運動を推進したウイクリフと最も関係の深い大学はどれか。

- a オクスフォード大学
- b ケンブリッジ大学
- c パリ大学
- d ロンドン大学

3 17世紀のヨーロッパに関する次の文章を読んで、後の問(1~2)に答えなさい。

(A) ヨーロッパでは、1620年頃からはじまる「17世紀の危機」と呼ばれる混乱の時代があり、内乱や戦争が頻発した。とりわけ三十年戦争は戦場となったドイツに壊滅的な被害をもたらし、その後のヨーロッパ秩序を大きく変えた。この戦争は、最初は(ア)をきっかけに神聖ローマ帝国内部の新旧宗派間の争いとして始まったが、周辺のプロテスタント国が参戦することで国際紛争となっ

た。参戦国の増大によって対立の原理が変わり、終盤は宗派を問わず、大国間の覇権争いに転じた。⁽³⁾ ウェストファリア条約で終局を迎え、以後ヨーロッパには⁽⁴⁾ (イ) 国家体制が敷かれた。戦後はウェストファリア体制と言われる比較的安定した秩序が確立し、各国は自国の経済発展に積極的に関与する⁽⁵⁾ 重商主義政策に邁進していく。

- (B) 三十年戦争前の神聖ローマ帝国では、14世紀中葉の皇帝(ウ)が帝国宮廷をベーメンの首都プラハに移し、帝国領域内で初の大学を創設するなどして、東欧の文化都市としての礎を築いた。歴代の皇帝のなかには、ルドルフ2世の⁽⁶⁾ ように天文学者や芸術家を宮廷に集め、彼らの活動を支援した治世者もいた。しかし、ハプスブルク家とベーメンとの良好な関係は宗派対立などで冷え込み、プラハも皇帝の拠点としての地位を失った。三十年戦争後、ハプスブルク家は東に領土を広げていく。(エ)年、ハプスブルク家はオスマン軍による第2次ウィーン包囲から反撃に転じ、⁽⁷⁾ (オ)条約ではじめてハンガリー全域を支配下に治めた。しかし、ここでもハプスブルクの支配に対する抵抗の火種は尽きず、⁽⁸⁾ 19世紀半ば、民族運動の高揚につながっていく。
- (C) 17世紀初頭のスウェーデンは、オランダの軍制改革を取り入れ、ロシアの内乱に介入して領土を獲得するなど、バルト海沿岸諸国のなかで勢力を伸張させていた。このバルト海沿岸諸国との争いが、スウェーデンの三十年戦争参戦の遠因となる。国王(カ)による目覚ましい戦功もあり、スウェーデンは同戦争でバルト海に面する(キ)を獲得し、⁽⁹⁾ バルト海の制海権を手に入れた。一方、同じバルト海沿岸のプロイセンは、1618年に(ク)選帝侯ヨージギスムントがプロイセン公国を相続することで成立し、三十年戦争後はハプスブルク家に拮抗する勢力に成長する。⁽¹⁰⁾ もうひとつのバルト海沿岸勢力ロシアでは、皇帝(ケ)が自らの西欧視察旅行を基に西欧化政策を進め、同時にシベリアへも進出し、中国の(コ)帝との間に条約を結んで両国の国境を定め、通商を開いた。

問1 空欄(ア～コ)に入る語として最も適切なものを選択肢(a～d)から1つ選びなさい。

- (ア) a ベーメンの新教徒による反乱 b ザクセン選帝侯による反乱
c オランダ市民による独立運動 d スイス市民による独立運動
- (イ) a 複合民族 b 主権 c 国民 d 立憲
- (ウ) a カール5世 b カール4世
c フリードリヒ2世 d ルートヴィヒ2世
- (エ) a 1672 **(b)** 1683 c 1689 d 1699
- (オ) a カルロヴィッツ b ネルチンスク
c ラシュタット d アーヘン
- (カ) a シャルル9世 b グスタフ＝アドルフ
c ヴァレンシュタイン d マクシミリアン
- (キ) a 西ポンメルン b 東ポンメルン c エストニア
d ラトヴィア
- (ク) a マインツ b ハノーヴァー
c ザクセン d ブランデンブルク
- (ケ) a イヴァン4世 b エカチェリーナ2世
c アレクサンドル1世 d ピョートル1世(大帝)
- (コ) a 康熙 b 雍正 c 乾隆 d 順治

問2 下線部(1～10)に関する以下の問いに答えなさい。

(1)の原因として挙げた次の文A、Bの正誤を判断し、その正しい組み合わせを選びなさい。

A 寒冷化による凶作やペストの流行などの災害がヨーロッパ各地を襲った。

B 魔女狩りの流行やアメリカ大陸からの銀流入による経済停滞が見られた。

- a A—正 B—正 b A—正 B—誤
c A—誤 B—正 d A—誤 B—誤

(2)の頃に起こった下記の出来事を年代順に並べると、2番目に来るのはどれか。

- a ステンカ=ラージンの乱の勃発
- b イギリス革命(ピューリタン革命)の開始
- c フロンドの乱の勃発
- d スコットランドの反乱の勃発

(3)に関して、主要参戦国の参戦順序が正しいのはどれか。

- a デンマーク—フランス—スウェーデン—スペイン
- b フランス—スウェーデン—デンマーク—スペイン
- c スペイン—スウェーデン—デンマーク—フランス
- d スペイン—デンマーク—スウェーデン—フランス

(4)で独立を正式に認められた国をすべて挙げなさい。

- a オランダ b スイス c ポーランド d ノルウェー

(5)に関連して述べた次の文A、Bの正誤を判断し、その正しい組み合わせを選びなさい。

A 輸入抑制と輸出促進による貿易差額で国を富ませる政策が主流となった。

B 金・銀を獲得することに重きを置いた。

- a A—正 B—正 b A—正 B—誤
- c A—誤 B—正 d A—誤 B—誤

(6)に関して、プラハを拠点に活躍した天文学者を1人選びなさい。

- レオナルド=ダ=ヴィンチ ガリレオ=ガリレイ
- c コペルニクス d ケプラー

(7)に関する説明として誤っているものを1つ選びなさい。

- a 第1次ウィーン包囲は、オスマン帝国がフランスと友好関係を結んだうえで行った。
- b 第1次ウィーン包囲時、オスマン帝国はスレイマン1世治下の最盛期にあった。
- c 第2次ウィーン包囲は、第1次包囲から100年経たずに始まった。
- d 第2次ウィーン包囲は、オスマン帝国が中欧から後退する契機となった。

(8)に関連して述べた次の文A、Bの正誤を判断し、その正しい組み合わせを選びなさい。

A コシュートらが、ハンガリーの完全な独立を求めて蜂起した。

B ベーメンではスラヴ民族会議が開かれ、憲法が制定された。

- a A—正 B—正 b A—正 B—誤
- c A—誤 B—正 d A—誤 B—誤

(9)に関するスウェーデンの状況を時系列に並べて2番目に来るのはどれか。

- a リュッツェンの戦いで神聖ローマ帝国軍を破った。
- b 三十年戦争でバルト海の北ドイツ沿岸地域を獲得した。
- c ロシア・ポーランド・デンマークの同盟に敗れ、バルト海の制海権を失った。
- d カルマル同盟から離脱した。

(10)に関連して述べた次の文A、Bの正誤を判断し、その正しい組み合わせを選びなさい。

A 第3回十字軍の際に結成されたドイツ騎士団が13世紀に建てた領邦に由来する。

B 16世紀にドイツ騎士団長がルター派に改宗するとともに世俗化し、プロイセン公国を形成した。

- a A—正 B—正 b A—正 B—誤
c A—誤 B—正 d A—誤 B—誤

4 次の文章を読んで以下の問(1~14)に答えなさい。解答は選択肢(a~d)から最も適切なものを1つ選びなさい。

19世紀後半、欧米列強では資本主義が発達し、それをさらに発展させるために積極的に膨張政策が展開され、世界中に植民地が拡大した。列強の中には大航海時代以降に築いた拠点からアジアや中東、アフリカで勢力を拡大した国もあった。

イギリスは、南アフリカでブール人からケープ植民地を奪い、また(1)首相の下で1875年にはスエズ運河会社の株を買収し、1877年にはインド帝国を成立させた。

フランスは1875年に(2)が制定された後、海外侵略を強化し植民地獲得に乗り出した。1880年代には複数の地域を支配下においた。またフランスは、1894年に政治と軍事に関して(3)を結び、国際的孤立からの脱出をする契機となった。

他方、19世紀後半までにヨーロッパ勢力が到達していなかったアフリカ大陸の内陸部を探索し、大陸の情報を収集するために多くの探検家がアフリカに進出した。イギリスのリヴィングストンはアフリカ大陸横断を果たした。リヴィングストン救出で名を挙げた(4)は、ベルギーの(5)をスポンサーとしてコンゴ川流域で多数の保護条約を結び、(5)の私有領を拡大した。この事実はア

フリカに植民地獲得の野心を持つ列強の間で重大な関心をよび、ビスマルクの提唱により1884-85年に開催された(6)でアフリカ分割のルールが確認された。(6)後、列強によるアフリカ争奪戦は一層激化した。軍事侵攻を進める列強に対し、アフリカの諸勢力も各地で抵抗を繰り広げた。

問1 空欄(1~6)に入る語はどれか。

- (1) a. デイズレーリ b. ジョゼフ=チェンバレン
c. ロイド=ジョージ d. マッキンリー
(2) a. 民法典 b. ミドハト憲法 c. 第二共和国憲法
d. 第三共和国憲法
(3) a. 三帝同盟 b. 英仏協商 c. 露仏同盟 d. 天津条約
(4) a. クック b. スタンリー c. アムンゼン
d. マンゴ=パーク
(5) a. レオポルド2世 b. ヴィルヘルム2世
c. ヴィルヘルム1世 d. ヴィットーリオ=エマヌエーレ2世
(6) a. ベルリン会議 b. 三国協商 c. ロンドン会議
d. サイクス・ピコ協定

問2 下線部(A)に関する説明のうち、誤っているものを選びなさい。

- a. このような政策は帝国主義と呼ばれた。
 b. この時期、イギリスは圧倒的な経済力・海軍力を基盤に世界各地で保護貿易を推し進めた。
 c. 植民地では原料供給地と製品市場に加え、資本輸出先としての重要性が認識された。
 d. この時期の資本主義発展の契機となった第2次産業革命では、巨大企業の市場独占と金融資本の形成が特徴的である。

問3 下線部(B)の19世紀末以降の世界経済における地位を表したことはどれか。

- a 「世界の工場」
- b 「世界の一体化」
- c 「世界政策」
- d 「世界の銀行」

問4 下線部(C)で活躍した(セシル＝)ローズに関する説明で正しいものを選びなさい。

- a 植民地総督としてプール人からケープ植民地を奪った。
- b 南アフリカでダイヤモンド業と金鉱業で成功した。
- c イギリス南アフリカ会社を率いて占領したローデシアは現在のボツワナである。
- d ケープ植民地首相の時に、南アフリカ戦争が勃発した。

問5 下線部(D)がある国において、1805年にオスマン帝国から総督の地位を与えられた人物は誰か。

- a ムハンマド＝アブドゥフ
- b ムハンマド＝アリー
- c セリム3世
- d マフムト2世

問6 下線部(D)について、スエズ運河会社の株買収後に強化されたイギリス支配に対抗し発生した抵抗で、その鎮圧をきっかけに1882年に実質上のイギリスの保護国化が始まった事件は何か。

- a タバコ＝ボイコット運動
- b ピラミッドの戦い
- c パープ教徒の乱
- d ウラービー(オラービー)運動

問7 下線部(E)について1877年からインド皇帝も兼任したイギリスの君主は誰か。

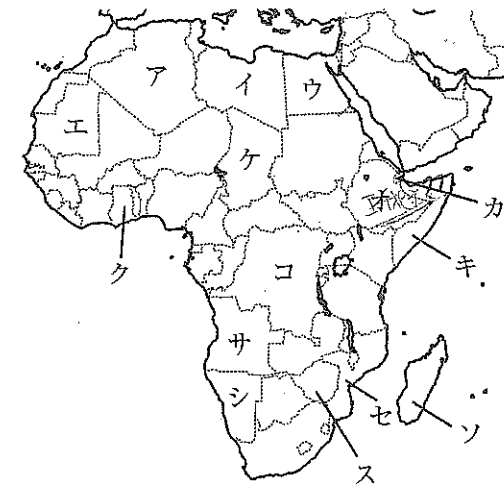
- a エリザベス2世
- b ジョージ5世
- c エドワード7世
- d ヴィクトリア

問8 下線部(F)の地域の組み合わせで正しいものはどれか。

- a ハイチとアルジェリア
- b チュエジアと仏領インドシナ連邦
- c マダガスカルとチュニジア
- d カメルーンと仏領インドシナ連邦

問9 下の地図は現在の国境線を引いたものである。かつてフランスの植民地に含まれていた国の組み合わせで正しいものはどれか。

- a ア・イ・ウ
- b ア・エ・ク
- c ア・カ・ケ
- d ア・オ・ソ



問10 下線部(G)は1885年にコンゴ自由国として成立したが、問9の地図上のどこか。

- a イ
- b ケ
- c コ
- d ス

問11 下線部(H)に関する説明のうち、誤っているものを選びなさい。

- a プロイセン首相として軍備拡張をおこない、ドイツ統一を達成した。
- b 社会主義者鎮圧法を制定して社会主義政党を弾圧した。
- c 海軍の大拡張を行い、イギリスを脅かした。
- d 彼を罷免したヴィルヘルム2世が第1次モロッコ事件を起こした。

問12 下線部(I)のひとつであるポルトガルの植民地だった国の組み合わせは問9の地図上のどれか。

- a エ・ク b イ・ソ c オ・シ d サ・セ

問13 下線部(J)のひとつであり、スーダンで10年以上にわたって継続したイギリス支配に対する抵抗運動は何か。

- a マフディー運動 b ファシヨダ事件 c マジ=マジ反乱
d アドワの戦い

問14 問13の抵抗運動鎮圧のために派遣されて戦死したスーダン総督ゴードンが、アジアにおいて鎮圧にかかわった反乱はどれか。

- a 太平天国の乱 b 義和団事件 c 甲午農民戦争
d 白蓮教徒の乱